

「あすなろ」 個人参加難病患者の会 1974年
「あすなろ会」 2号 1月20日

おけまに おめごと) になります。

昨年11月3日発表以来、多事多難なから、年を越しました。
会費は30名です。今年も心を強く持つ病と闘つた者
りましよう。会費の力を合わせましよう。

会費の病名 (1月20日現在)

脳心臓カウロウ症候群。急性乾性脳炎。不快感。
両下肢閉塞血栓血管炎。糖尿病性網膜症。難聴。
足の爪は膨腫。自力尿不変。気管支拡張症。貧血弱後。

尿管症(2) 脳性失調症(2) 癌(2) 脈管病(4)

パーキンソン症候群(6) 不明 4

以上のおよび一病一団体にたいし難病闘と抱えています。

しかし「あすなろ会」が心の寄り所として、相談の場が
かりとして、又医療福祉行政への声と暮せるとしての役
目を果たすよう、会費者で「会」を市で行はうとして活動
して参ります。御意見、御希望をどうして下さる。

——— その後のニュース その他 ————
1973年11月25日 道難病連加盟「再生不能性血液患者と
家族の会」年総大会。治療法は輸血しかなく、療養の
困難さが作られた。

12月9日 旭川市に道難病連旭川連絡会が発足。
会長出席。「あすなろ会」を附しました。会費として旭川在住の
友田尚氏を役員として、道比での活動をいたしました。

早急におつとを認めたい解決です。私共の所が一つとも
 室を子母より、これからは機会ある度に済んでいくつもりです。
 おつと反響もある、お電話等で問い合わせ等せられたい
 ます。テレビ局でも大変好意的に取り扱って下さる感謝
 して参ります。医療の面でも、同病者の経験を語り合い、
 喜ばれたい参ります。会号になる事もあつとです。

1973年11月21日

会員の野村春吉氏(76才)が亡くなりました。

御家族から「お友な会」を「よりりりり」つ(やつた)といふこと
 で感謝の言葉がのべられたい参りました。

会刊号はお出にかげりごとかですませんでした。
 お悔みとお供料をお送りしました。心から御家族へ福を祈
 りいたします。敗血症と申は素にありましたか、再生不祥は貧
 血でした。追悼句 詞を告げし文置く、外は雪しくれ
 小 つ 小み たか女

会員の手記をお読みしたい参ります。本紙に歯みお語り済んで
 さい。一人ご心にお読みこまないて、皆の声にいたまします。

会員の人の歯みは、全会員の歯みや済んであるのです。

二号にはお二人の手記をおせました。

尿管症の患者の家族からのものです。

「私たちの長男が発病したのは、まったくある日突然のことでした。
 1才4ヶ月になった春のある日、いやに水をほしかるから
 変だかなと思つていたら、夜12時ごろ、何度も目をさましては
 水をほしかつ泣くのです。
 これはいよいよおかしいと思ひ、次の日、近所の病院では

病院でも糖尿病の薬なども試しは飲ませましたが、長男の場合 全然効果がありませんでした。
ほかの尿崩症の人には効いていいる計があるようですが、
何度か入院しているうちに、今の医学では、またまた解明され
たらしい。恐ろしい病気が決まるとは知りません。
これは、小児科でしたから、本来は他人事と思えば涙の出るよ
うな事が何度かありました。昨晩まで我子と隣のベツで
仲よく遊んでいた子が急に個室に移され、数日後に
せくたつたと知らされた時、そのお母さんに何と声をかけて
よいのか言葉もありませんでした。又、病気の子どもを抱は
また若い人が多く、医療費の負担も大変なものです。
私たちが結婚したくは幸い子で、また何の財も無く、
借金したりは大変でした。これでも私たちの場合はまた
よい方で、何年もくり返し入院している人などもっともつと
大変で、そのため御主人のあつかりあかしたつて、病院に見
舞う年々たつた。お金の困った原因が、子供が病院に預けた
ゆえにいいる人もいました。このお子さんは、長男が入院してから
しばらくして亡くなったとです。我が子が現在法外しな
がらも何とか普通の生活ができ、元気な子供達と一緒に、
通学できるのはまたと幸いせな事、と思ひます。
しかし最近になつて、新たに身長のおまじり伴ひないと言ふ心
配が去りてきりまふ。東京の病院で検査をしてみたら
良いのではと言われいいるのですが、東京に行けば必ずよ
くなる希望があるわけにはなし、現在我が家の経済状態

から見ても、ちよつと決心がつかないでいる所です。
日本の経済成長がどの、どの、と言つても、我々の苦境
たいへんと思われています。日本の政治界のふくらみ方は、
少し、苦痛で(厚生省指定の特定疾患だけでなく)苦し
む多くの人が、又その家族の事を考へては下りない
のでよいか。孝行と、苦痛なことが、障害児である
ことが、生活の心配がなく、仲間を食ひのびのびと
食ひつける世の中であつてほしいと願つておきます。

このために、行かしたい、求めたいと「あすなろ会」に
入会しました。と、この苦境よろしくお尋ねいたします。
「尿管症の子を持つ母」

スプリングの患若の家族からです。

「息子が尿管症と診断され一人暮らしを離れ、市立病院
に入院したのは、2年前5才6月の時です。幼稚園
の運動会でリレーの競争と、走つた後な子が一週間
後には入院。それは最低3月とき、私は全身から力
がぬけおぼつかぬ涙を流しました。初めての病で、
外科手術を引っぱり出し、調べてみたが、不審なものは
ありません。先般から尿管、膀胱、腎臓、傷む虫歯、
紅毛、たまたま原因と考へられるので、毎に男の子は、
体質もあるのではよいか、いつか、さかからぬ原因不明
の難病との事としました。入院して、手術、金療法で
考へや体のたみはとれましたが、一番おぼつかぬのは、
手術や金療法が強いられるのは苦痛です。

